

令和2年度 第1回岡山県立図書館協議会

日 時：令和2年9月10日（木）14：00～16：00

場 所：岡山県立図書館 サークル活動室1

出席者 ○委員：秋山委員、小野委員、貝原委員、工藤委員、永田委員、平松委員、道
広委員、宮野委員、湯澤委員

○県立図書館：中本館長、奥山副館長（総務・メディア課長）、林総括参事（サ
ービス第一課長）、笠原サービス第二課長、松本資料情報課長、鳥越
図書館振興課長、神田総括副参事（企画・メディア班長）

欠席者 ○小林委員

1 開会

2 開会挨拶

県立図書館 中本館長 挨拶

3 資料確認・委員紹介

4 会長・副会長選出

5 協議・報告

(1) 岡山県立図書館の運営状況等について

資料1

資料2

資料に基づき、事務局から説明

【委員】

全国一位転落ということだが、簡単に言うと高知は県立と市立を一緒にしたものとい
うことか。そういうあり方も今後検討されていることだろう。

【委員】

レファレンス受付件数が非常に高くなっており、ツイッターも利用されていると言わ
れていた。図書館の機能として、人と直接かかわるレファレンスが高いというのは魅力
的である。その他に工夫していることはあるか。

【事務局】

昨年度特にレファレンスで工夫したということはないと思う。今までもそうだったが、
主題別6部門に分かれて職員を複数配置している。専門性の観点から丁寧に相談に対応
しているという積み重ねが大きいと思う。

【委員】

読み聞かせに参加していたお母さんから、読み聞かせの時に司書が加わっているので、
そのあとにカウンターに行きやすい、という声があると聞いたことがある。そのような
地道な活動も良いのかもと思った。

【委員】

高知の予算はどのようになっているのか。

【事務局】

県と市がそれぞれ予算措置しているようだ。

【委員】

資料費が結構少なくなってきた。来館に関係していると見ているのか？

【事務局】

蔵書の回転数を整理してみた。回転数とはその本が1年間に何回借りられているかを見るものだが、買ってから経過するにつれて確実に回転数が落ちていく。客観的データで明らかだ。資料費が削減されれば、その分全体のうちに新しい本が占める割合が減ってくるので、回転数が落ちていくのは明らかである。

【委員】

予算をとるのをがんばっていただきたい。

(2) 中期サービス目標について

①第3次中期サービス目標について（令和元年度）

資料3

資料に基づき、事務局から説明

【委員】

幅広い活動されているということで改めてびっくりしている。学校図書館も支援いただいていたたり、ネットワーク研究会でもアドバイスいただいております。学校図書館で学習支援をどのように進めていくかが悩ましいところである。県内の司書が熱心に勉強していただいているが、なかなかそれをうまく現場で取り入れられていないという悩みがある。4ページのところにある図書館職員の専門性の向上というところで、6つのグループでテーマに沿って研究というところがあるが、例えばどのようなテーマをどのように研究していて、どれくらい講師をしているのか教えてほしい。

【事務局】

昨年度のグループ研究としては著作権、レファレンスサービス、電子図書館のデジタルアーカイブ、資料保存、図書館の展示、障害者サービスや多文化サービスという外国の方やマイノリティなど図書館の利用がしにくい方へのサービスのほか、児童サービスなど、それぞれ6つのグループに分け、通常業務に限らず、職員が自分の専門性をさらに磨きたい内容を研究していくというものである。

【委員】

高校が派遣してもらいたいという場合は派遣してもらえるのか？

【事務局】

市町村教育委員会から連絡してもらおうようにしているが、もし派遣してもらいたいということであれば当館から出向いて講座を行っている。高校へは過去にも郷土資料の担当が高校に出向いて講座をしたことがある。当館の図書館振興課に連絡いただければ可能な範囲で対応させていただく。

【委員】

6部門で分けているということだが、レファレンスについてどのような工夫しているか。6部門とはNDCのことか？

【事務局】

1階に人文、児童、総合、2階に郷土、自然、社会のカウンターがある。その6部門である。

【委員】

レファレンスの専門の方がいるのか？レファレンスは電話が多いのか？

【事務局】

正規の司書を各部門ごとに複数配置している。直接来館でのレファレンスが多く、該当の部門が様々な相談を受けている。

【委員】

起業について、岡山市との連携がなくなっているようだが？

【事務局】

従来は県立図書館を会場にして岡山市が直轄で事業を実施していたが、岡山市が外部委託をし、当館が関われなくなったのが大きな原因である。県の外郭団体である産業振興財団とは連携ができています。

【委員】

こういう取り組みがあるということが初めてだったので感心しました。これからまた来年度に向けてという時に、コロナの影響を受けて経營業績立て直しなど、新たな提案などのコーナーであるとか、広い意味でのビジネス支援というようなものが来年度も継続されるのか、さらに今年度中でも良いが時流を読みながら行うということはあるか？

【事務局】

今年度の予定であるが、10月から岡山県産業振興財団と共催でプレインキュベーションセミナーを全8回で行う予定としてしている。受講者が10名程度と少ないが、その分きめ細かく創業を考えている方に対して中小企業診断士や弁理士の方など入って頂いて行う予定としてしている。このうち10月24日には事業計画の策定方法を学ばれるが、県立図書館の資料を使ってこのようなことができることを説明する。第8回までであるがすべて会場は県立図書館である。それぞれの回に合わせて資料を会場に持ち込み、終了後にはその資料を借りたり、データベースやアクセスコーナーを使っていただける。今年度は創業相談会も1月に予定されている。これは産業振興財団のインキュベーター協議会とのダブル主催となっている。令和元年度は17名程度の参加があった。今年も同じくらいの参加があるのではないかと考えている。去年まであった創業フォローアップセミナーはこういうご時世なので、例年夏にあったものが変更するという連絡があり、現在のところ当館での予定はない。来年度に向けても産業振興財団等と連携しながらやっていければ良いと考えている。また、毎年やっていた高校生のビジネスプラングランプリは残念ながら中止となった。ビジネスプラングランプリに合わせて展示をしていたが、なくなってしまったのでそれに代わる何かをとということでビジネス本の展示を実施した。ちょうどお盆時期で多くの方にご覧頂いた。今後も時勢を見ながら企画をしていきたい。

②第4次中期サービス目標（案）について

資料4

資料に基づき、事務局説明

【委員】

第3次目標の重点プログラム2（1）の上から3番目の子ども書とあるのは児童書のことか？

【事務局】

子ども読書の間違いである。「読」が抜けている。

【委員】

第4次目標の重点プログラム2はどれもすばらしいと思う。今まで図書館では集客中心に色々なことで長い時間図書館にいてもらおうとこだわったが、コロナの関係で当館でも1時間以内に帰って下さいとお願いしている。今までよしとしてきたことが全部真逆になってしまって、よそに行っておはなし会をしていたものがほぼできなくなり、今までのあり方を全部見直さないといけなくなった。ボランティア活動も中止している状況である。これから図書館活動をどうしていけばいいのか、コロナのことで考えていた。ここに示していただいてすばらしいと思う。電子書籍サービスの導入とかユニバーサルデザインの視点にたったサービスとか大事なことだ。このところ災害が続いて大変だが、将来に役立つ資料を残していくべきと思っている。第4次までしていただいているので感謝している。

【委員】

電子書籍サービスについて、参考として8月下旬の記事を紹介する。7月1日時点の集計では、都道府県など100の自治体で電子書籍を導入している。岡山は入っていないが。進んでいるところを見ると兵庫で12自治体。東京は規模が大きいので81自治体。そのようなところが先進県である。35都道府県でやっているといっても一つの自治体だけでやっているとか、まだ始まったばかりのようだ。電子書籍は色々問題があるように聞いていたがやっぱり進んできている。コロナだけでなく、高齢者や障害者など、そういったことを考えて進めていかないといけない。先ほど検討だけでなく導入という説明だったが、ぜひ加速していただければと思う。（要望）

【事務局】

電子書籍は中四国の県立でいうと広島、徳島、高知の3県が導入している。広島は今回のコロナの関係で7月の終わりに導入していて、子ども向けとのことだ。7月に導入ということでまだ実績はできていない。当館としても検討するにあたり、先進県をしっかり研究しながら進めていきたい。

【委員】

電子書籍の件数（タイトル数）はあるのか？

【事務局】

件数はまだ少ないようだ。その他に買い取りにするかリースにするかなどそれぞれ課題があるようである。

【委員】

双方向の相互コミュニケーションツールで、ズームとかを使って読み聞かせに利用されることはあるのか。

【事務局】

読み聞かせについて、著作権がクリアになっているものが出版社からいくつか出ているが、当館では今のところそれを使ってズームで読み聞かせという計画はない。今回第

4次の目標では、対面朗読について、対面朗読室でボランティアに来て頂いている部分をズームやビデオ通話を使ってできないかを検討しようとしている。図書館の講座についてはどのように配信できるか検討しているが、11月の県立図書館のとことん活用講座で、録画してオンデマンドで配信できないか計画を進めている。読み聞かせについてはまだ計画できていないが今後検討していきたい。

【委員】

第4次を見させて頂いて、貸出ではないというところの決断は、大きなものだったのではないかと思う。県立図書館でこう言って頂けると、県下の図書館も本の貸し出しばかりではなく、いかに図書館にいる間に利用者に満足してもらえるか、本当の意味での生活支援というところに力を注げるのではないかと感銘を受けた。調査研究のところについて、ブックリストの作成はいろんな本を選んでいくという視点で研究の維持成果としてはある。それを指標にしたということは、これまでも研究されているからこそ指標になり得るのだと、これもいいなと思った。アクセスしやすいように、例えばホームページにアクセスにしなければ到達できないとなるともったいない。いろいろなアウトプットの仕方で紹介してもらえると良いのではないか。その前の重点のところ意見を言うと、保育の関係で子どもたちに本を手渡すことに関しては、子どもの成長に合わせてどのような本を手渡せばよいか日々考えている。新刊図書を全購入するという大きな柱とすることは変える必要はないと思う。子どもたちにまず最初に読んでほしい本や、愛読書になって欲しい本がたくさんありすぎるとアクセスできない、ということになりかねない。そのような本は大概古くなっていたりボロボロになっていたりする。幼稚園によってはあるのでその本は買い直さない。いい本は買い直すと子どもたちがまた読み始めるということがあるようで、児童図書の充実も併せて改めて買い直していただくとか、わかりやすく展示していただくというふうにしていただきたい。もう1点、いきいき子ども読書プログラムで、子どもが安心して生活できるという点では、親たちの心が安定しているとか、育児不安というものが少しでも改善できるとすれば「子どもへのサービスの充実」が含まれるのかもしれない。このあたり、現状として子育てが、いわゆる地域の力が云々とあるが、国際比較すると中国のお母さんのほうが満足しているということらしい。おじいさんやおばあさんが子どもの面倒を見るということが行われている。日本はそのようなことはなく、満足できない。全部が全部図書館にお願いするのは酷な話だが、そうしたお母さんにとっての支援につながる場所、ソフト面につながるものだと思うが、そういったところを充実してほしい。子どもの貧困はなかなか抜け出せない。行政的なところで手続きをすれば良い、だけではなく、周辺の図書に触れることも難しい母子家庭もある。保育園にかかわっていると、子どもの貧困はかなり現実にはせまっている。広く親御さんたちや起業家も支援できる場所があれば良い。どうやって指標にするかは難しいので、ぜひツイッターでつぶやいてほしい。こういうことを企画しているとか、本選びは難しいと思うのでいっしょにお手伝いするよとか。おはなし会でも十分されている。ソフト面でしていただきたい。また、ズームで研修会はかえって情報が整理されていてわかりやすいという面があるが、直接的なストーリーテリングも大切にしたいとのことだったので、引き続き、場としての図書館をやって頂きたい。またそのようなときにマスクをとってしていただきたいと思う。発達心理学では小さな子どもたちは口元を見る。口とか鼻とか顔全体で表情は伝わっていく。今までやっ

ていたいものは選んで残したり、オンデマンドでできそうなもの、内容に応じて残そうなど、どのように図書館を運営するか岐路に立たされているのではないかと思う。

【委員】

県立図書館のツイッターを見た。いろいろなキャンペーンをやっている、という情報があって、利用者のために工夫されていると思った。もっとフォロワー数を増やすために、イベントやキャンペーンをやった際に参加している利用者の写真とか、声とかを載せるとより身近になるのではないか。自分は学童保育アルバイトをやっているが、そのブログを更新している。子どもたちは自分が載っている写真を見ようとしてアクセスが増える。読み聞かせに参加した時の写真を掲載すると、自分の子どもが載った写真を見ようとしてフォロワー数も増えるのではないかと思う。

【委員】

情報発信ということは大事なことだ。情報発信のツールとして第3次ではツイッターフェイスブックを活用していくということで、いよいよ第4次からはツイッターのフォロワー数という数字が出てきた。数字が2000件が多いのか少ないのか。今見たら1625だった。6月の時点からいうとすでに約60人増えている。自分もその中の一人であるが。あと4年かけて2000人は少し少ないのではないか。情報発信のツールとして使うのであれば、もう少し高めの数字でも良いのではないか？また、皆さんがどのようなツールを使うのかわからないが、フェイスブックが今回外れている。ツイッターとフェイスブックでは目的が違う部分がある。自分はフェイスブックを使う方だ。なぜツイッターになったのか。

【事務局】

ツイッターとフェイスブックの両方を今現在使っているところであるが、若い方への情報発信ではフェイスブックよりもツイッターではないかと考えた。もちろん、年配の方へも配慮しなければならないが、より身近に使って頂けるということでツイッターにさせてもらった。

【委員】

ツイッターにまとまった意図は了解した。フェイスブックが指標にないのでおろそかになるということではなく、ツイッター、フェイスブックSNSを有効活用していただければと思う。また、先ほども出たが、窓口がホームページからでないといけないということもあるので、フェイスブックやツイッターから入っていけるところもあるし、ズームなどの動画アップできる。リアルタイムでなくても動画をアップして雰囲気を見てもらうこともできる。SNSやWEBを活用して魅力を発信するというのをぜひ強く押し進めてほしい。(要望)

【委員】

ツイッターやフェイスブックについて、学校現場では外部の人の写真が写ることを非常に警戒している。一般の人や生徒の顔をどう写してそれ広げるか非常に慎重になっている。便利だが怖いな難しいなということがある。電子書籍を積極的に導入ということだが、時代の流れなのでやむを得ない。一方で学校現場でも、紙の本と電子書籍では読書の質はどうか。体系としての読書は同じものなのか。学びの深さという意味で、電子書籍で手に入れたものは情報で終わってしまうのではないか。学びの観点あるいは体験としての読書の観点で、電子書籍と紙の本ではどうか。読書専門家の見解が気

になるところだ。

【委員】

研究は出ている。紙はある意味深い学びというところではやはり差がある。ただ、知識を入れるというところではそこまで大きい差があるのかどうか。小さい子がお母さんに読んでもらうのは紙の方が体験になる。あまり本を読まない子どもたちにとっても調べものとしては紙の本の方が深いものがあるが、大きな差というほどではない。大学図書館もコロナの関係で電子図書を入れた。アクセスできないということに関する焦燥感がすごかったが、電子図書があると災害時など直接行けないときに安心感がある。

【委員】

本で見た方が話に入り込めるし、集中できると感じている。ゼミの研究結果では電子書籍より紙の方が集中力が続くという研究結果がでていているということなので、紙の方がいいのかなと思う反面、手軽に読めるという点では電子書籍の方が良いのかなと思う。

【委員】

両方があって選べるのが良い。愛読書は紙で置いてほしい。肖像権の件は、学校とかはあらかじめ可否を聞いている場合もある。

【委員】

オープンスクールなどで、顔が見えないようにしている。雰囲気はわかるが顔が見えないので、子どもたちが楽しんでいるのかどうかわからない。おもしろくない写真になってしまう。

【委員】

中学校のPTAでホームページに写真を載せる際に、みんな配慮しはじめると面白くないので結局やめようということになってしまった。大学やその他の企業などは表情があって魅力が伝わったりするので、了承を得て公表をすることになると、かえって本人たちも思い出になったり、貢献しているということがわかる。運用のルールが作られると思うので、慎重になりつつ魅力が伝わる方がよい。

(3) 岡山県内市町村立図書館の動向について

資料5

資料に基づき、事務局説明

【委員】

先日、あわくら図書館に行ってきた。村民の身近な図書館という感じだった。大人と子どもがある程度分けられていて、子どもの会話などもあまり気にならずに読書ができる。夜の方が頻繁に利用されているようだ。仕事が終わってからの若い人が、結構本を片手に集まっていた。

【委員】

移住者が増えるかもしれない。